

～下田のデキゴト～



**6/30 開港記念事業「渋沢栄一翁と下田講演会」**

近代日本経済の父と称される渋沢栄一の講演会を実施しました。玉泉寺東堂と群馬県東善寺住職であり小栗上野介研究の第一人者の村上泰賢氏を講師とし、渋沢翁が目指したものの志を学びました。



**7/7 3年目に突入！アップサイクルプロジェクト**

今年度も下田ライフセービングクラブ、(株)シッパス、豊島(株)、下田市の4者協働で、海浜回収ペットボトルアップサイクルプロジェクトを実施します。その幕開けとしてビーチクリーンを行いました。



**7/18 鳥獣被害対策講習会**

下大沢区において、獣害対策専門家の井上雅央氏を講師に、地域住民が主体となって行う被害防止対策の講習会が開催され、地域や住民に適した鳥獣被害対策についての勉強や実習を行いました。



**7/4 下田中学校3年生浴衣の着付け体験**

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を通して紹介された下田市着物愛好会の方を講師として、実際に浴衣の着付けを行うことで日本の伝統文化を体験、学習しました。



**7/11～20 夏の交通安全県民運動**

夏の交通安全県民運動が7/11～20まで開催され、11日は交通安全関係団体による早朝一斉街頭指導を市内主要交差点で実施し、交通量の増える観光シーズンに向け、安全運転意識の向上を図りました。



**7/20 プロによるバレーボール教室**

Vリーグに所属する東レアローズ静岡の選手たちをお招きし、市内中学校、高校の男女バレーボール部を対象にバレーボール教室が行われ、生徒たちはプロ選手の技術やパワーに目を輝かせていました。

7月の  
できごと  
6日 下田をきれいにする日  
6日 下田わくわくパークこれば！  
17日 寿大学

19日 市内小中学校終業式  
27日 下田開港170周年記念事業「下岡蓮杖翁と下田」  
29～30日 教職員の歴史まちづくり・社会科見学

地域子育て支援センター通信

問合せ先 地域子育て支援センター ☎02200



9月の予定

- 2日(月) 救急救命講習 10:30～  
講師：下田消防署救命士
- 4日(水) めだかルーム 9:00～11:30
- 7日(土) 開館日
- 9日(月) 防災出前講座(起震車体験) 10:30～
- 11日(水) あひるルーム 9:00～11:30
- 13日(金) 下田の伝統芸能を見てみよう  
講師：下田伝統芸能普及促進委員会
- 17日(火) 体育館で遊ぼう 9:30～11:00  
場所：市民スポーツセンター(サンワーク)
- 18日(水) うさぎルーム 9:00～11:30
- 20日(金) 誕生会 10:30～
- 21日(土) 開館日
- 25日(水) 敷根公園で遊ぼう 9:30～11:00
- 27日(金) 下田の空襲の伝承  
講師：遊・VIVAネットワーク
- 30日(月) 発育測定・育児相談 9:00～11:00  
保健師・栄養士来所

いよいよ夏がやってきました。体温調節が十分に発達していない子どもたちは、熱中症の危険性が大人よりも高まります。こまめな水分補給を心がけましょう。子どもたちの大好きな水遊びも始まりました。ちょっとした油断が事故に繋がることもありますので、安全面には十分な配慮が必要です。ご家庭のお風呂場やビニールプールで遊ぶ時にもお子さんから目を離さないように気をつけましょう。

年齢別ルームのお知らせ

9月から3月まで毎月1回(午前)、同年齢(名札の色)で集まって遊ぶ日を設けます。同じ年齢のお子さんを持つ保護者同士で情報交換、親子同士でふれあう場としていただければと思います。年齢ごとの呼び名は表記のとおりです。実施日については変更になることもありますので、確認の上ご参加ください。

めだかルーム	未歳児： <b>オレンジ名札</b>	R6.4.2生～
第1水曜日	0歳児： <b>桃色名札</b>	R5.4.2生～R6.4.1生
あひるルーム	1歳児： <b>黄色名札</b>	R4.4.2生～R5.4.1生
第2水曜日	2歳児以上： <b>水色名札</b>	R3.4.2生～R4.4.1生
うさぎルーム	： <b>緑色名札</b>	H30.4.2～R3.4.1生
第3水曜日		



誕生会



交通安全教室



知育ヨガ



七夕製作

こんにちは、市長です  
「モノより思い出。」

今から10年ほど前に「下町ロケット」というテレビドラマがあった。下町の町工場で働く人々の情熱が、観る人の感動を呼んで当時大話題となっていた。ものづくり大国日本は、実は市井の人々がそのひたむきさで支えているのだ、ということを感じた。このドラマを通じて感動と共に理解したのだ。

静岡県はものづくり県として全国に知られている。自動車、バイク、ピアノ、紙などなど。出荷額日本一のものも少なくない。ただ、こうした製造業は、東海道筋に連担しているものの、伊豆半島の南にはあまり見ることがない。

周知のとおり、私たち下田市の主産業は観光であり、ものづくりという範疇には属さない。そこで私は、「コトづくり」(※)と呼ぶことにした。

モノ・コト・ヒトという言葉が流布した時代があった。確か90年代だったように思う。当時のCMに「モノより思い出」というキャッチコピーがあった。

これらは工場で生産されるモノではない。袋に入れて家に持ち帰ることもできない。思い出は、言ってしまうと儂いものだ。しかし、心の中に刻まれる尊いものだと思う。

こうした「コト」を私たちはこれからも提供し続けたい。それを糧にして、まちを持続可能にしていきたい。そして、そのために、もっともつと工夫していこうと思う。コトづくり日本一のまちを目指して。

※「コトづくり」という言葉は既に使われていました。

た。とても鮮烈だった。しかもそれはクルマのCMであった。私はとても気に入って、「そうだよなあ、やっぱり心の中に残る何かがあるんだよなあ。」とやたら納得していた。

そして、今、観光地下田が目指すべきはまさに、その思い出づくりのようなコトづくりなのだ、と考えている。家族で海に来て子どもが見せた弾けるような笑顔、紫陽花の小径を恋人と歩いた時の胸のときめき、など。